

ワクチン忌避と 予防接種の勧め方

あいち小児保健医療総合センター
総合診療科 小川英輝

Ten threats to global health

大気汚染と気候変動

非感染性の疾患
(糖尿病、悪性腫瘍、心疾患)

インフルエンザの
パンデミック

脆弱で無防備な生活環境

薬剤耐性菌

エボラ出血熱や
他の致死率の高い病原体

脆弱なプライマリー・ヘルスケア

ワクチン忌避

デング熱

HIV

ワクチン忌避



- ワクチン接種が可能な状況であるにも関わらず、
接種に消極的であったり、拒否的であったりすること

- 自己満足 (Complacency)、利便性 (Convenience)、信頼性 (Confidence)
などがワクチン忌避の理由になる (3-Cs)

自己満足 (Complacency)

ワクチンで予防可能な疾患に
罹患するリスクはすでに低い

と思っている

利便性 (Convenience)

可用性, コスト, アクセス
などの面で ワクチン接種が面倒だ

と思っている

信頼性 (Confidence)

ワクチンの効果、安全性、
行政、医療界に対する不信感

がある

予防接種へのスタンス → 千差万別

	積極的擁護	受容	無関心	懐疑	否定
スタンス	接種に疑いがなく 全てに肯定的	集団生活のために 必要	周囲の勧めで接種	不信感があるが、 全否定ではない	全てのワクチン を否定
スケジュール	スケジュール通りに接種		遅れがある	一部未接種	自分の子どもに 接種しない
医療者の信頼	医療者を信頼している			疑問はあるが、 不信ではない	医療者不信
情報に対して	医療者からの情報に関心がある		情報に関心がない	関心があり、 自分で調べている	ワクチン情報に 見向きもしない
公費に対して	公費化に賛成	重要なので公費と 考えている	公費でなければ 接種しない	公費でも未接種の ワクチンがある	公費化に反対
本人の意志	思春期以降は本人の意志を尊重する				思春期以降も 接種させない

ワクチンを
ゼツタイに打たない
と決めている人

1%未満
(米国)


思考・行動変容は
困難を極める



潜在的な

ワクチン忌避

国や地域によって頻度は異なるが、0.1~10%ぐらい
(最大で25.8% (インフルエンザワクチンに対して))



- 理由は特にない（よくわからない）が拒否
Ex) 生ワクチンは打たないとか

- 迷っているが周りに合わせている

- 理由は特にないが受容

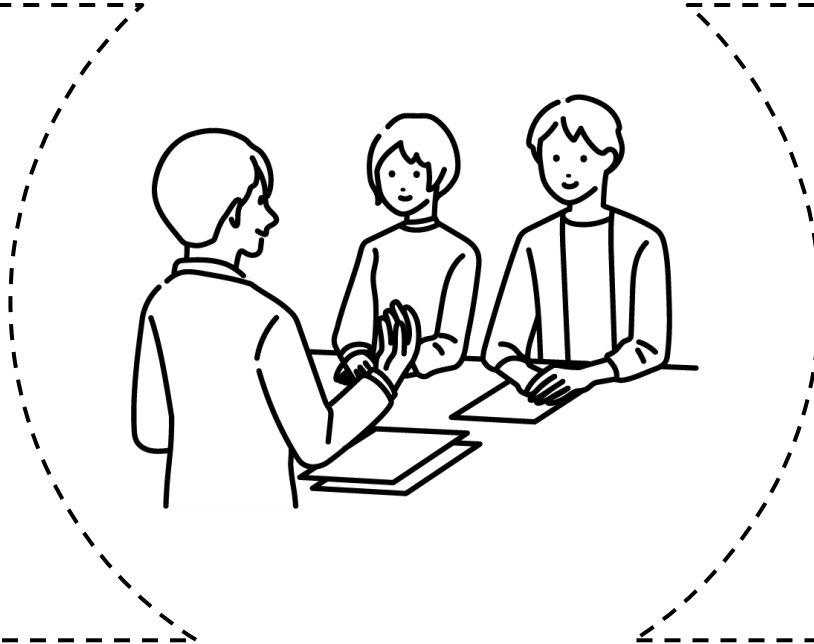
- 全て受容（問答無用で接種したい）

● → 理由は特にない（よくわからない）が拒否
Ex) 生ワクチンは打たないとか

● → 迷っているが周りに合わせている

▲
配慮する対象となるべき人

対面による情報提供は、
ワクチンの情報が不足している人に効果的



ワクチン忌避（不信感や不安^{など}）に対する
効果的な面接方法はわかっていない

日本の現状

～ ワクチン忌避に対する外来診療の実態 ～



成育医療研究センター



2018～2019年（1年6カ月間）
救急外来受診者
6歳未満

36,183 人

ワクチン忌避外来を紹介

- ・感染症専門医が担当
- ・救急受診と別日に設定

ワクチン忌避

58 人
(0.16%)

40人

… ワクチン外来を受診せず

18人

… ワクチン外来を受診

忌避の理由：主に**副反応**に対する心配

- インターネットで免疫に関する情報収集
- 反ワクチン活動家の医師からの助言

成育医療研究センター

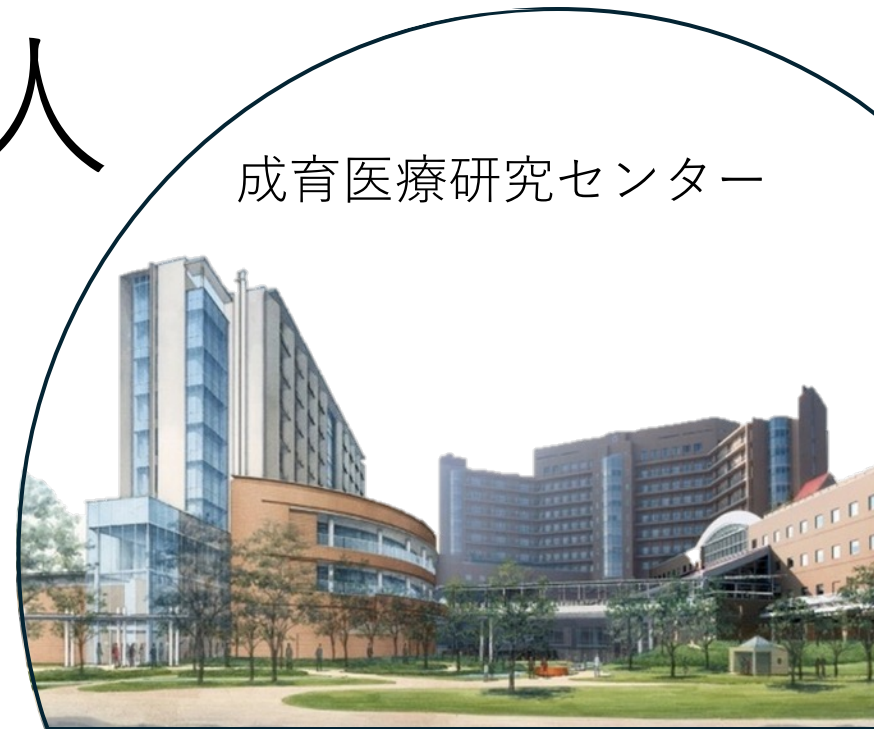


ワクチン外来にかけている時間

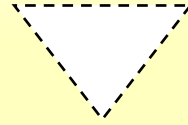
1-2 時間/人

成育医療研究センター

※ Power pointで個別に資料を作成して説明、その後に対話



成育医療研究センターの報告から
見えてくること



プライマリケアの現場で
ワクチン忌避を拾い上げる



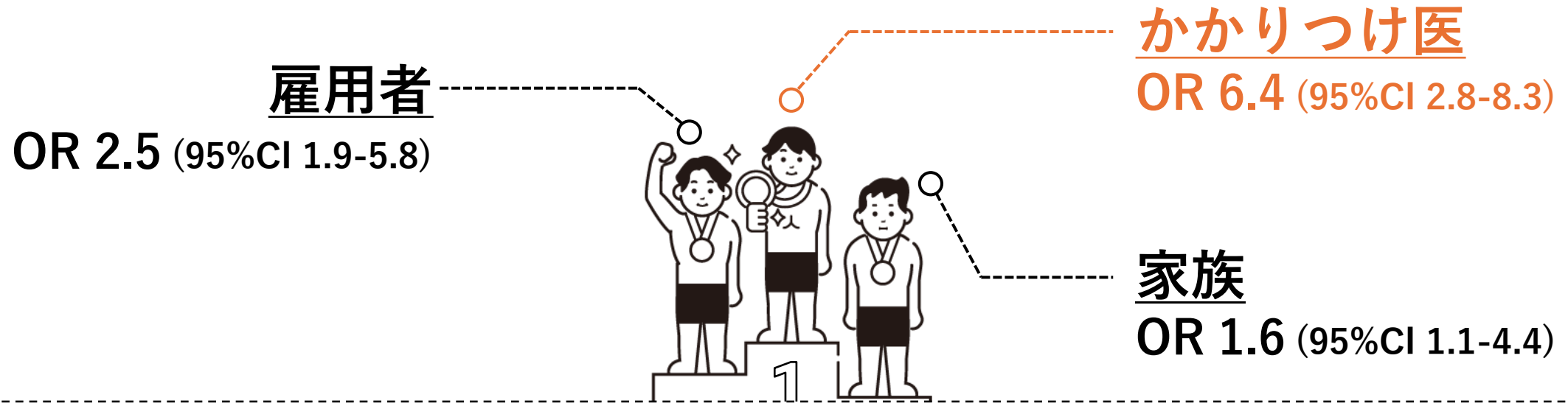
心配事の
話し相手になる



希望があれば
専門家につなぐ

心配事の話し相手になる

新型コロナウイルスワクチン接種 誰からの推奨で受け入れたか？



かかりつけ医の皆様の役割は
とても大きいです！



プライマリケアの現場における ワクチン忌避とのコミュニケーション

～ 関係性を維持することに努める ～

予防接種を受け入れていることを

褒めめる

「ワクチン、順調ですね。素晴らしいですね！」



予防接種を拒否していることを

非難・論破

しない！



「ダメじゃないですか！みんな受けているんですよ。」
「データからみて、アナタの考えは間違っています。」

責任

※ 非難ではなく、”子どもの健康維持”のための責任であることを強調する

「お子さんを守るために、知っておいてほしいことがあります。」

病気に対して守られていない

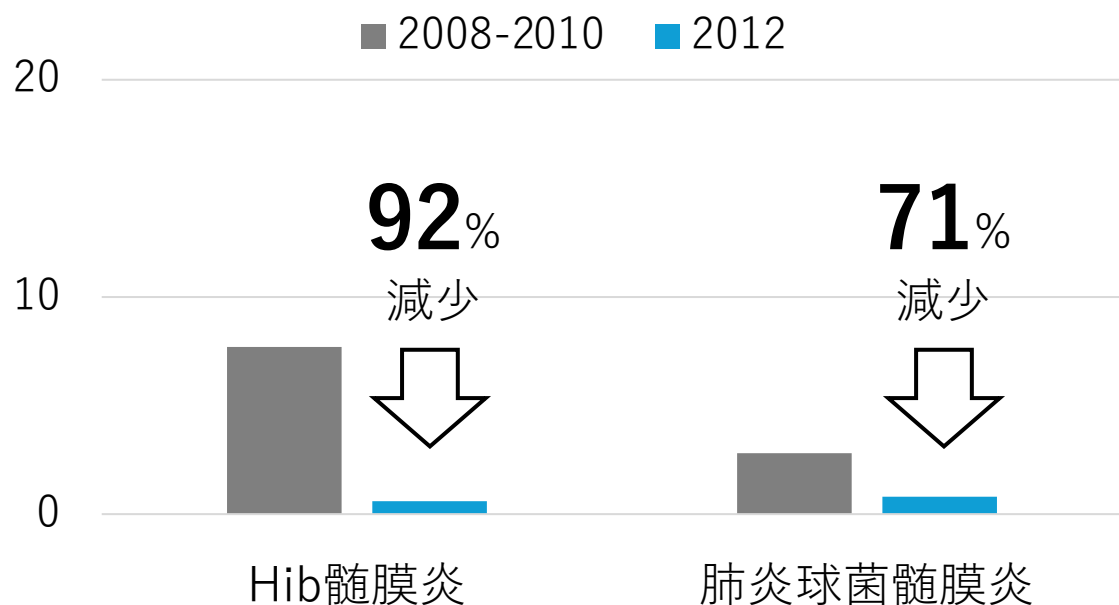
特別な医療・制限を要する可能性あり

地域の流行状況を把握する必要性あり

「科学的+ストーリー性」も大切

Hum Vaccin Immunother.2013;9:1795-801.

「ヒブワクチンの登場によって、
ヒブによる髄膜炎は92%減りました。」



「ヒブワクチンが登場する前、
ヒブは髄膜炎の原因で最も多く、年間
600人が罹り30人が亡くなってました
脳の後遺症は30%ぐらいで残り、
一見後遺症がないようにみえても、
中学生以降に知的低下で困る子もいます

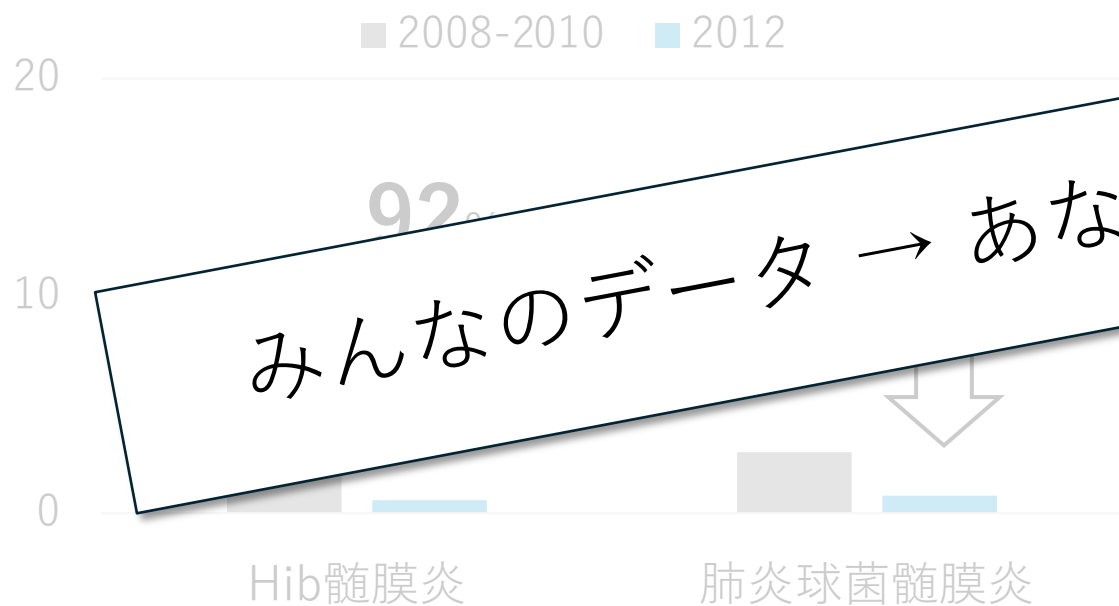
喉頭蓋炎といって、息が出来なくなって
亡くなってしまう原因にもなります

ワクチンの登場によって、今の小児科医
でヒブの感染症を診療した人はほとんど
いません。」

「科学的+ストーリー性」も大切

Hum Vaccin Immunother.2013;9:1795-801.

「ヒブワクチンの登場によって、ヒブによる髄膜炎は92%減りました。」



「ヒブワクチンが登場する前、ヒブは髄膜炎の原因で最も多く、年間600人が罹り30人が亡くなった。脳の後遺症は多く、苦しむ子もいます」

みんなのデータ → あなたのデータへ近づける作業

喉頭蓋炎といって、息が出来なくなって亡くなってしまう原因にもなります

ワクチンの登場によって、今の小児科医でヒブの感染症を診療した人はほとんどいません。」



日本の子どもたちを守るため、どうかVPDを知ってください。

VPDは、子どもたちの命にかかわる重大な病気。日本では、毎年多くの子どもたちが、ワクチンで予防できるはずのVPDに感染して、重い後遺症で苦しんだり、命を落としたりしています。世界中に数多くある感染症の中で、ワクチンで防げる病気—VPD—はわずかです。防げる病気だけでも予防して、大切な子どもたちの命を守りましょう。

VPDとは"ワクチンで防げる病気"のこと

Vaccine (ワクチン) Preventable (防げる) Diseases (病気) の略です

子どものワクチンとVPD

日本の子どもが接種できるワクチン	防げる病気
➡ B型肝炎ワクチン	➡ B型肝炎 (肝臓がん)
➡ ロタウイルスワクチン	➡ ロタウイルス感染症 (胃腸炎)
➡ 小児用肺炎球菌ワクチン	➡ 細菌性髄膜炎などの肺炎球菌感染症
➡ 五種混合・四種混合・三種混合・二種混合ワクチン	➡ ジフテリア / ➡ 百日せき / ➡ 破傷風 / ➡ ポリオ / ➡ 細菌性髄膜炎などのヒブ感染症
➡ 不活化ポリオワクチン	➡ ポリオ
➡ ヒブワクチン	➡ 細菌性髄膜炎などのヒブ感染症

おすすめ 予防接種スケジュール

予防接種スケジュールをたてるときの基本ルールと5つのポイントをおさえると「どのワクチンから受けたらいいの？」がわかります。

2024年4月版 予防接種スケジュール

大切な子どもをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、接種できる時期になったできるだけベストのタイミングで、忘れずに予防接種を受けることが重要です。このスケジュールはWHO(世界保健機関)のVPDを知って、子どもを守ろうの画によるものも早期に免疫をつけるための目安です。お子さまの予防接種に關しては、接種ごとの接種方法やVPDの流行状況に關して、かかりつけ医と相談の上スケジュールを立てましょう。

ワクチン名	接種回数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	11歳	12歳
B型肝炎 (必ず赤ちゃんを救え！)	3回	0歳	1歳								
ロタウイルス (劇化ワクチン)	2回	1歳	2歳								
小児用肺炎球菌	2回	1歳	2歳								
五種混合 (ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ、ヒブ)	5回	1歳	2歳	4歳	5歳						
BCG	1回	0歳									
MR (麻疹、風疹、流行性腮腺炎)	2回		1歳	2歳							
水痘	2回		1歳	2歳							
おたふくかぜ	2回		1歳	2歳							
日本脳炎	5回	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳					
新型コロナウイルス	2回										
インフルエンザ	毎年										
HPV(2種、4種、9種) (ヒトパピローウイルス)	2回										
髄膜炎菌	1回										
遺精ワクチン	1回										

5つのポイント:

1. 接種できる時期になったらできるだけベストのタイミングで、忘れずに予防接種を受けることが重要です。
2. 接種ごとの接種方法やVPDの流行状況に關して、かかりつけ医と相談の上スケジュールを立てましょう。
3. 接種スケジュールをたてるときの基本ルールと5つのポイントをおさえると「どのワクチンから受けたらいいの？」がわかります。
4. 接種スケジュールをたてるときの基本ルールと5つのポイントをおさえると「どのワクチンから受けたらいいの？」がわかります。
5. 接種スケジュールをたてるときの基本ルールと5つのポイントをおさえると「どのワクチンから受けたらいいの？」がわかります。

風疹をなくそうの会 『hand in hand』

私たちは、日本で再び風疹が流行をしないようにするための情報発信、流行によって影響を受ける女性、子ども、家族のサポートをするために集まった妊娠中に風疹に罹って出産した母親と先天性風疹症候群の当事者グループです。女性や赤ちゃんが安心して街を歩ける社会をめざして、皆で支えあいながら活動をしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



ひとりで悩まないで

「もしかして風疹になったのかも知れない」と不安の方、病院で風疹と診断された方、情報交換をしている私たちの輪に加わりませんか？

※当会は風しんの予防啓発を行う事を目的とした非営利団体で、皆様の寄付により運営を行っております。当会の名称や会員の名前を無断で掲載し、営利活動を行う一切の商行為については堅くお断りします。

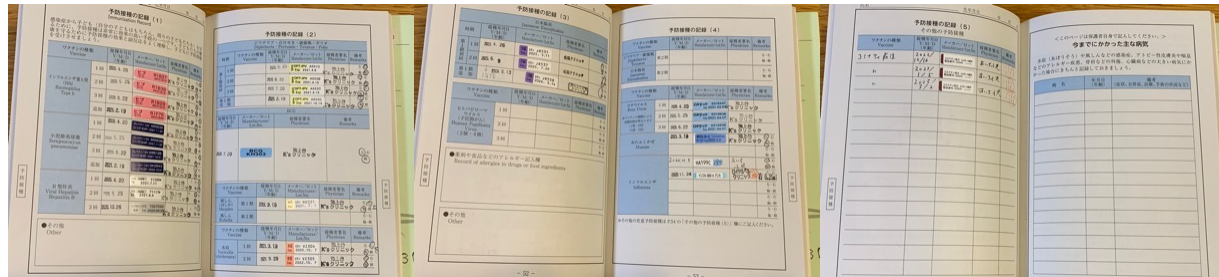
「私自身」はどうしているか？

保護者の心に最も刺さったことは
「自分の子どもに対して、実際にどうしているか？」

Am J Prev Med.2011;40:548-55.

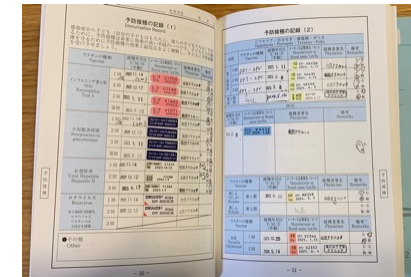
長男 4歳

Hib④、PCV13④、DPT-IPV④、HBV③、RV5③
BCG、VZV②、MR①、Mumps①、JEV③、Flu
COVID-19③



長女 2歳

Hib④、PCV13④、DPT-IPV④、HBV③、RV1②
BCG、VZV②、MR①、Mumps①、Flu





Refuser
(拒否)

Hesitancy
(忌避)

- 説得は無効 なことが多い
- 情報提供するが、押しつけない
- 門戸は常に開けて、診療/相談の機会を残す
「困った事があったら、いつでも聞いて下さい。」
- ライフイベントが介入のチャンス！ … かもしれない
(同胞が生まれた、家族の大病、こどもの入院 など)

Hesitancy

(忌避)

○ 推定アプローチ
動機づけ面接

を用いたコミュニケーション

推定アプローチ

：ワクチンを受け入れてくれる前提で話をする
ワクチン接種を他の医学的推奨と同じように扱う

こんにちは。

今日は赤ちゃんの1か月健診ですね。2か月になったら肺炎球菌、
五種混合、B型肝炎、ロタウイルスのワクチンを接種しましょう。

お子さんについて何か質問はありますか？



会話を始めるテクニック

：家族がワクチンについて考え、

質問や同意がしやすいコミュニケーションを心がける

こんにちは。

今日は赤ちゃんの1か月健診ですね。2か月になったら肺炎球菌、五種混合、B型肝炎、ロタウイルスのワクチンを接種しましょう。

お子さんについて何か質問はありますか？

同意を引き出す



会話を始めるテクニック

：家族が心配していることを妥当だと受け止めつつ、
強く推奨する理由を添えて、質問に対応する

心配されていることがあると伺いました。

接種できるタイミングになったら早めに接種をするのがおすすめです。

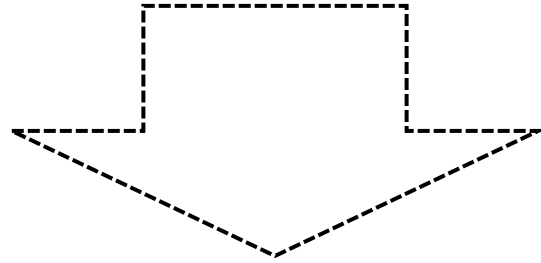
2か月から接種できるワクチンは肺炎、髄膜炎、重症な胃腸炎などからお子さんを守ってくれます。

もし罹ってしまうと非常に重篤な状態になってしまいます。



推定アプローチ

では対応が難しい場合



動機づけ面接

動機づけ面接

：自らの考え方や行動が変化するための援助を行う方法
常に相手に寄り添いながら会話を進めていく

この
順番で
話を
聞く

Open-ended question（自由回答式の質問）

Affirmation（賛同）

Reflection（反映）

Summarize（まとめる）

Open-ended question（自由回答式）

「はい」「いいえ」で答えることのできない

自由回答式の質問で会話を始める

「心配されていることについて、聞かせて頂けますか？」

「このワクチンについて、心配なことを教えてください。」

「今はどのように考えていますか？」



Affirmation (賛同)

家族の長所、価値観、ポジティブな要素を肯定する

「教えて頂いてありがとうございます。それはご心配ですね。」

「お子さんのことを一番に考えておられるのですね。」

「ご自身で勉強されて、ご判断されたのですね。」

※ その不安や疑問などを打ち消す否定的なことはいけない



Reflection (反映)

同意を得てから話すことで、

家族を意志決定者として尊重していることを強調する

「私もこのワクチンについて調べてみたのですが、
少しお話しさせて頂いてもいいですか？」

「私も勉強して自分のこどもに接種するという選択をしました。
私の意見をお話ししてもいいですか？」



Summarize (まとめる)

自分の訴えを別の人から聞くことによって、
客観性をもってその事実を判断すること促す 手順

「予防接種の話をはじめたとき、〇〇がご心配とのことでした。
△△のお話をさせて頂き、ご理解頂いたと思います。
最終的にはご家族が納得した上でご判断頂きたいのですが、
今はどのように考えていますか？」

※ すぐに接種するかを問うのではなく、迷いがある場合は
次の外来予約を行い、もう一度一緒に考えることを伝える





日本小児科学会が主催する トレーニングワークショップ



ワクチン忌避に対する動機づけ面接トレーニングワークショップ